

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和7年度病虫害発生予察注意報第4号について

令和7年度病虫害発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

令和7年度病虫害発生予察注意報第4号

普通期水稻の紋枯病の発生が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病虫害名 : 紋枯病
- 2 作物名 : 普通期水稻
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多

5 注意報の根拠

- 1) 7月下旬の巡回調査の結果、紋枯病の発生面積率は15.4%（平年1.3%）、発病株率は2.9%（平年0.2%）で、いずれも平年比多であった（図1、図2）。
- 2) 7月下旬の発生面積率、発病株率は過去10年間で最も高い（図3、図4）。
- 3) 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並と予想されており（鹿児島地方気象台1か月予報 7月31日発表）、本病の発生に好適な条件が続くことが予想され、注意が必要である。

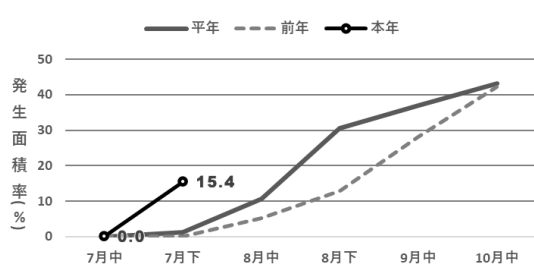


図1 月別発生面積率の推移

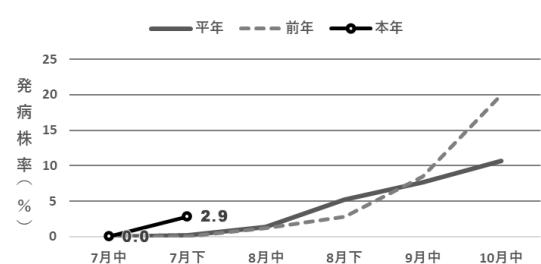


図2 月別発病株率の推移

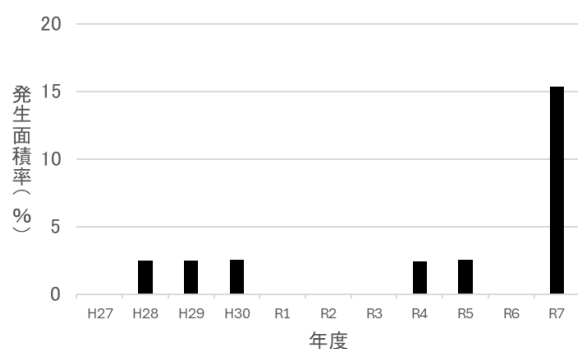


図3 年度別発生面積率の推移

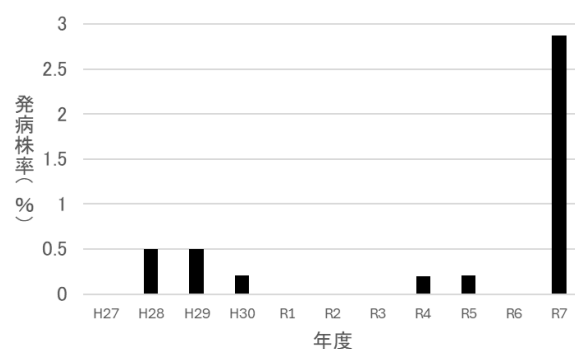


図4 年度別発病株率の推移

6 防除上の注意

- 1) 窒素質肥料の多用は避け、過繁茂にならないようにする。
- 2) 本病の防除適期は、幼穂形成期から穂ばらみ期である。その後の進展に応じて追加防除を行う。
- 3) 県内で主に使用されているバリダシン（粉剤、粉剤 DL、液剤、エア－）は出穂2週間前から穂ばらみ期が防除適期である。
- 4) 前年に発病が見られたほ場や常発ほ場、多肥栽培のほ場では発病しやすい傾向があるため、発病の確認と早期防除を徹底する。
- 5) 薬剤散布の際は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

7 その他

6月1日から8月31日の3か月間は、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベルの登録内容の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
（病虫害防除・肥料検査センター） 清、後藤

TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP：https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

